

(別紙4(2))

事業所名:グループホームほたるの里

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 5 月 8 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--------------------------------------|--|---|------------|
| 1 | 3 | コロナ禍の影響もあり、運営推進会議を活かした取り組みが出来ていなかった。 | 地域の方々や家族との交流を多く持てる機会をつくる。 | ・家族を招待しての誕生日会 ・文化祭のようなもの 入居者やスタッフの絵や書などの作品展 地域の方々の観覧 カラオケ・合唱などを披露する等 | 24ヶ月 |
| 2 | 18 | コロナ禍の影響で、日常的な外出などの支援ができなかった。 | 家族の協力を得て、本人の要望に添った外出や外泊ができる。 | ・家族といっしょに外出(自宅・親戚宅・墓参り・買い物・友人宅等) ・自宅への短期外泊 ・スタッフと一緒に買い物や野外活動 | 12ヶ月 |
| 3 | 15 | 食事を楽しむことができる支援 | 楽しく食事ができるような雰囲気づくりや工夫ができる。 | ・スタッフにいろんなアイデアを出し合ってもらう ・季節を感じる食事や地元の食材や料理を取り入れる ・一緒に作る ・野外での弁当等 | 12ヶ月 |
| 4 | 13 | 災害対策が不十分なところがある | 災害時にスタッフ全員が適切な動きができるようになる。 | ・災害時のマニュアル作成及び見直し ・定期的な訓練実施 | 12ヶ月 |
| 5 | 12 | 重度化や終末期を向けた方針の共有と支援 | 協力医療機関と終末期の方針を共有し終末期の支援に向けてスタッフの知識共有と知識技術を見につける。 | ・協力医療機関との連携を密に行う ・家族への説明と同意をとる ・スタッフに対して、グループホームにおける終末ケアについての研修を行う | 24ヶ月 |

| | | | | | |
|---|----|----------------|--|---|------|
| 6 | 17 | 入浴を楽しむことのできる支援 | 入浴が楽しめる雰囲気づくりや環境を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全でリラックスできる浴室にできるよう工夫する。 (改修が必要ならば工事を考慮) ・本人の要望をとり入れる(本人の好きなシャンプーなど、入りたい時間・音楽等) | 24ヶ月 |
| 7 | 19 | 居心地のよい共有空間づくり | それぞれの日々の過ごし方を把握した上で、居心地のよい共有空間づくりを目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・気の合う入居者との席の配置 ・共通の興味や話題でコミュニケーションを深める 試み ・さりげなく仲介できるようにスタッフに促す。配慮ができるスタッフにスタッフになれるよう教育する | 12ヶ月 |
| 注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。 | | | | | |